

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

中学校区におけるめざす子ども像 人権意識を高く持ち、特別支援教育を通して、自己肯定感や他者への思いやりのある児童生徒の育成
--

堺市立 泉北高倉小学校

校長 川上 寛

令和8年度 重点目標 (1)自分も他者も大切にす心の教育の推進 (2)習得、活用、探求を工夫した深い学びの充実 (3)人権教育・障がい者理解を基盤とした個に応じた指導の充実 (4)学校群を核とした特別支援教育の推進
---

<p><b>確かな学びの現状</b> 児童は課題に向き合い、学んだことを理解し活かそうとしている。一方、学習状況調査では、「相手を意識して伝え合うこと」や「自分とは異なる意見について考えることを楽しいと感じること」に依然として課題が見える。表面的な理解だけでなく、本質的で深い学びへと高めていくためには、場面に応じて適切な言葉を選び、ペア・グループ・全体といったかかわりのある形態を生かした学習活動を充実させる必要がある。とりわけ、「必然性のある対話」を重ねる中で、他者の視点を受け止めながら自らの考えを問い直し、組み立て直していく経験が大切である。こうした経験の積み重ねは、学力向上だけでなく、社会で求められる協働性や創造性の土台を築くものであり、学校全体での実践と研究を継続していくことが求められる。</p>	<p><b>豊かな心・健やかな体の現状</b> 児童は明るく素直で思いやりをもち、困っている友だちにも積極的にかかわろうとする姿が見られる。一方、自尊感情を育むことや、よりよい人間関係を築くことに難しさを抱える児童もいる。そのため、自分自身のよさを肯定的に受け止めたり、相手の立場に立って気持ちを理解しながら関わったりする力を育てていくことが求められる。あわせて、児童が安心して自己を表現し、互いの多様性を認め合える温かな学級づくりを通して、豊かな人権感覚を養っていくことも必要である。また、児童の体力向上に向けた継続的な取り組みも欠かせない。生涯にわたって健康に過ごせる身体をつくるためにも、体育的行事をはじめとする学校教育活動全体を通じて、体を動かすことに親しみ、楽しさを味わう機会を積極的に設けながら、基礎体力の向上を図っていく。</p>
--	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (10月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	基礎基本の定着	事実的な知識の習得と知識の概念的理解の育成	知識・技能の習得・育成のため、児童の理解と進度に応じた学習課題の提示	平均正答率が全国、本市より上回る。	全国学力・学習状況調査 堺市学習・生活状況調査 学年テスト	年度末			
			ICTを活用した家庭学習の習慣化	児童用タブレットで家庭学習を月1回以上行う	実施状況				
	授業改善	相互の多様な視点や考えを尊重した、協働的な学びによる授業づくり	●考えたり判断したりしたことを、相手意識をもち、わかりやすく伝え合い、聴き合う授業づくり	①「自分の考えを伝えたり、他者の考えを聞いたりしている」②「考えを伝え合うことで、自分の考えが変わったり、広がったりすることがある」 ①②ともに肯定回答率80%以上	学校教育自己診断				
既習内容をふりかえり、生かすことができる学習課題の提示			「国語・算数の授業はわかりやすい」肯定回答率85%以上						
豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	多様性理解と自他の尊重に基づく、豊かな人権感覚の育成	●学校教育全体を通じて、豊かな人権感覚を醸成するための授業づくりおよび授業改善	「まわりの人の気持ちに、気づいてあげられる人になりたいと思う」肯定回答率90%以上	学校教育自己診断	年度末			
			係・当番・学級活動・児童会・委員会・縦割り班など、たがいのよさを認め合いながら取り組む、児童主体の活動を推進	「だれかのために、いいことができる人になりたいと思う」肯定回答率が90%以上					
	体力向上	児童の身体活動への自発的参加意欲の育成	●安心して過ごせる環境づくりに取り組み、いじめの未然防止を図る。年3回以上の「いじめアンケート」実施と、SC・SSWとの連携による問題の早期解決	「学校の先生は、いじめなどわたしたちが困っていることに、しっかり向き合ってくれて助けてくれる」肯定回答率100%	学校教育自己診断	毎学期 必要に応じて行う			
体育の授業に加え、体育的行事等とおした運動意欲の向上(スポーツテスト、かけ足記録会)			「外で遊んだり運動したりなど、体を動かすことが好きだ」肯定回答率80%以上						
地域協働	信頼される学校	家庭、地域、中学校区との連携を通じた、協働性に基づく信頼関係の醸成	ホームページや学校だより、ほけんだよりなどを活用し、本校および中学校区の教育活動を発信	「ホームページと学校だより、保健だよりなどは、子どもの学校生活を知る上で役立っている」肯定回答率85%以上	学校教育自己診断	年度末			
			★特別支援教育を軸にした、家庭、地域、学校群との連携充実	「学校は、懇談会や学校協議委員会など、保護者や地域の方との対話の機会を適切に設けている。肯定回答率85%以上					

校長より(年度末)	学校関係者評価者から(年度末)
-----------	-----------------